

## RP-01「岩手県中部地域（花巻市北上市）における産後ケアニーズの把握」

課題提案者：まんまるママいわて

研究代表者：看護学部 福島裕子

研究チーム員：佐藤美代子、志田香奈（まんまるママいわて）

### <要 旨>

近年、全国的に「産後ケア」が展開されている中、滞在型の産後ケア施設は岩手県には1件もない。今回、出産施設数が減少している岩手県中部地域で妊娠・出産を経験した女性自身の声から産後ケアのニーズを明らかにした。その結果、女性たちのほとんどが、産後に困難を感じており、産後ケアとして助産師などによる支援ニーズが強くあることが明らかにできた。しかし「経済的な面」「移動の面」「手続き」などで利用しにくいという気持ちも持っており、そのニーズにそった体制を検討しなければ十分な利用につながらない可能性が示唆された。

### 1 研究の背景と目的

岩手県中部地域（花巻市と北上市）は、1995年以降の産婦人科の集約化により、産科休診、産科施設閉鎖が相次ぎ、出産できる施設数が限られている地域である。花巻市や北上市で出産する女性たちは、「安心安全な分娩」の為に分娩施設を探し、交渉し、何とか場所を見つけて出産するという状況になっている。また短い入院期間で十分な育児技術を取得できないまま退院を迎え、退院後も育児の心配事を相談することが出来ずに家で不安な思いを持つ母親もいる。

「まんまるママいわて」は2011年東日本大震災をきっかけに立ち上がった、助産師と産前産後の女性をつなげる子育て支援事業をメインに活動する任意団体である。設立時より県内の各地域で子育てサロンを実施し、産前産後の女性が安心して産前後を過ごせるように活動を行ってきた。その活動の中で特にここ数年、母親達の声から産後の不安が増加していることが推測された。例えば「産後、実家に帰ったが、実母が働いており、休まらなかった」「退院後、母乳の事を相談したくても病院には相談できない体制だった」という言葉が聞かされるようになってきた。日本の伝統的な産後のサポートだった「里帰り分娩」も、ここ岩手では様変わりしており、実家での支援だけでは十分ではない現状がうかがえる状況となってきた。

また、その一方でシングルマザーなどの社会的問題を抱えた妊婦も増加している。平成27年度の花巻市では、妊娠届全700通の約3割が「出産後の養育について出産前において支援を行うことが特に必要と認められる妊婦」と定義される特定妊婦であり、妊娠から育児期までのきめ細やかなケアを必要とする女性たちである。

そのような現状の中、国は、地域レベルでの妊娠、出産、子育て期の切れ目のない支援の強化を図るため「妊娠・出産包括支援モデル事業」を平成26年度に創設し、その取組のひとつとして、出産直後に休養やケアが必要な産婦に対し心身のケアや育児サポート等のきめ細かい支援と休息の機会を提供する「産後ケア事業」を推進している。

しかし、岩手県では、平成27年10月現在、産後ケア事業を行っている施設はまだなく、今後推進していく必要

がある。そのためには岩手県で出産・育児をする女性にとって、どのような産後ケアが求められているのか、そのニーズを、女性自身の立場から明らかにし、具体的な支援を検討する必要があると考えた。

そこで今回、岩手県の中部地域に在住する産後3年以内の女性たちを対象にグループインタビューによる聞き取り調査を実施し、女性たちの産後経験からどのようなニーズがあるのか明らかにした。

岩手県では、今後ますます周産期医療の過疎化が進むと予想される。今回の調査で妊娠、出産を経験した女性自身の声から産後ケアのニーズを明らかにすることは、岩手県における妊娠から子育て期の切れ目のない支援を検討する基礎データにもなり、社会的意義のある調査といえる。そしてこれらのデータを岩手県中部地域の行政と共有することで、今後、我々も含む各種団体と連携した産後ケアの具体策を検討する一助にもできると考える。

### 2 研究の方法

グループインタビューによる面接調査。対象は花巻市、北上市に在住で過去3年以内に分娩を経験した女性である。研修対象者は、「まんまるママいわて」のホームページやFacebookで呼びかける、または花巻市や北上市で行っている母子対象のヨガ教室で公募チラシを配布することで公募した。インタビューの日時と会場はあらかじめ研究者で設定をし、平成28年3月から7月までの各月1回、5回分の日時を設定し、産後の女性が応募できるようにした。協力の意思のある方から、メールまたは電話で連絡をもらい、その後、詳細の研究説明書と依頼文書を郵送またはメールで送付し、個別に説明をしてから研究参加の同意を得た。

インタビューは5～6名を1グループとして行い、所要時間は1グループ1回およそ90分程度とした。インタビュー内容は大きく3つのカテゴリーに分けて、①自身の産前産後、出産時の状況②市町村の保健サービスに関する感想や意見③産後ケア事業に求めるもの、とし、研究者がファシリテーターとなって話を進めていく形をとった。インタビュー内容は参加者の承諾の元ICレコーダーに録音し、分析データとした。子連れの方への配慮として、託児スタッフを配置し、おもちゃ・授乳

テープ、オムツ替えスペースの準備を行った。なお本研究は、岩手県立大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認番号164）。

### 3 これまで得られた研究の成果

グループインタビューは5回行った。参加した女性は、29名、花巻市在住者16名、北上市在住13名、初産婦11名、経産婦18名だった。



図1 グループインタビューの様子

#### ①母親たちの産後の困難感の現状

今回の調査では、初産・経産問わず、29名の女性たちのほとんどが、「妊娠中に考えていたよりも大変だった」「こんなはずじゃなかった」など、産前に自身がイメージしていた産後の生活と現実の子育ての生活にギャップを感じていた。その中で、「実家に帰ったが、実母や家族に気を使った」「夫、あるいは家族と喧嘩した」というように、身近な支援者であるはずの実母や夫との関係性にも不安や困難感を体験していた。また、今回の母親のほとんどが「妊娠中は、自分は大丈夫、乗り越えられると思っていた」「私は大丈夫である」と産後の生活に困難を感じると思っていたいなかった。そのため、産後に実際とのギャップが生じ、それを困難と感じていた。

妊娠中から産後の具体的な生活をイメージできる情報提供が、産後への切れ目のないケアにつながるといえよう。

#### ②市町村の保健サービスの利用状況と課題

今回の調査で、市町村のサービスを受けた母親の思いや感想が様々であることがわかった。特に産後の家庭訪問については「生後2か月の時に訪問を受けており助かった」と語る母親がいる反面、「もっと早い時期に来てほしい」という意見もあった。まったく面識のない地域の民生員の訪問を経験した母親は「戸惑った」「何を話せばいいかわからなかった」など、困惑を感じていた。中には民生委員が高齢男性だったため、「おじいさんに母乳のことなど言えるわけもなかった」という母親や、事前に訪問日時の相談がなく、突然訪問されたために、驚き、何も相談できなかった、という母親もおり、せっかくある産後の家庭訪問支援が、うまく活用されて

いない現状も浮き彫りとなった。しかし、その声を行政へ伝える機会もなく、母親自身が抱えたままになっており、サービス改善につながっていないことも推測された。

#### ③新しい産後ケア事業へのニーズ

今回の調査では、産後に困難を感じた際に、実際の行政サービスや病院のサービスだけでは「不十分」「困った」という人が多くいた。そのため、今回の参加者全員が、「産後ケアは必要だ」という意見であった。

その一方で「料金が安価でなければ利用できない」「ファミサポや一時保育などは手続きが面倒で利用に至らなかった」「泊りがけでゆっくりしたい」「行くより来てほしい。移動が大変」などの声があり、経産婦からは「上の子を自分の目の届く範囲で見ていてほしい」といった上の子に関する意見が多かった。

このように、産後ケアの需要があるが、そのケアに求める内容は個性があり多岐にわたっていた。特に、産後ケア事業があっても「経済的に自分自身にお金を十分かけるのは難しい」という意見が多く、中には「相談にお金はかけない。市へ行けば無料で相談を受けられる」という意見もあった。限られた地域の母親の声ではあるが、岩手県では、“有料で相談・指導を受ける”ことが一般的ではないと認識されている状況が明らかとなった。これは都市部に比べ、病院や助産院等が少なく、「相談＝市町村」という図式が成り立っているためではないかと考えられる。その反面、産後に助産師による母乳相談や、病院内での母乳ケアを受けた女性の多くが、その結果に満足しており、産後の助産師による支援のニーズ自体は強く持っている事が伺える。

以上のように、今回、岩手県中部地域の母親たちには、これまでとは異なる新しい産後ケアのニーズが高くあることが明らかとなった。しかし「経済的な面」「移動の面」「手続き」などで利用しにくいという気持ちも持っており、そのニーズにそった体制を検討しなければ十分な利用につながらない可能性が示唆された。

### 4 今後の具体的な展開

本研究で得られた成果を活かし「まんまるママいわて」では2016年10月に、花巻市に岩手県初の産後ケア施設である、産前産後ケアハウス『まんまるぽっと』を開設した (<http://manmaru.org/>)。さらに、今回の調査結果を行政と共有することで、2017年4月からは花巻市より「産前産後ケア事業」の委託を受け、活動を展開している。

今後は、『まんまるぽっと』の利用者の声を把握しながら、さらに岩手県中部地域における充実した産後ケア事業の在り方を検討していく予定である。

### 5 謝辞

グループインタビューにご協力いただいたお母様方に深く感謝申し上げます。